H-2〜H-7　（分科会　6 月 12 日(土)14:30〜17:25　N331 教室）

聖なる動物が解き明かす自然と人間の関係

個体性、日常性、持続性

シンジルト（熊本大学文学部）

本発表は、アムド・チベットに位置する青海省河南蒙旗の事例を中心に、そこで展開する家畜の聖別現象を検証することで、牧畜民社会における自然と人間の関係の輪郭を浮き彫りにしようする試みである。

人口3万人の河南蒙旗牧畜地域においては、ツェタル牛やツェタル羊と呼ばれる家畜の存在が広くみられる。ツェタル（*tshe thar* ）とは、牧畜民（人間）が、自らの世帯の守護神や土地の主を喜ばせるため、ある家畜個体の命や魂を自由にするないし解放することを表すチベット語である。人間は彼ら（家畜）をほふったり、売ったりすることはしない。彼らはツェタル儀礼をうけ、首や耳にナヴツァルというリボンをつけ、いわば「聖なる」ものと分別され、家畜というカテゴリーからはみだす聖なる「動物」となる。しかし、聖別されたからといって、彼らの生活が急変するわけでもない。他の家畜からみれば、彼らはそれまで同様、群れの一員に過ぎず、日常どおりにただ生きていくだけである。性別や年齢などの属性を問わず、原則的にあらゆる家畜がツェタル儀礼を受けられる。彼らの聖なる位置づけは、種ではなく、個体としての次元において確立している。ツェタルが老死した場合、各世帯は新しいツェタルを選出する必要があり、ツェタルの持続性が重要である。

ツェタルと類似する立場にいる家畜個体はショグレ（命を買い取ることを意味するチベット語の敬語）である。ショグレが選別される理由は、人間の病気治療のため、家畜の体格がよいこと、毛色がきれいであること、狼に噛まれても死ななかったためなど多岐に亘っている。またショグレが老死した場合、必ずしも新しいショグレを選ぶ必要がない。そして、ショグレの対象範囲は樹木や市販されている魚類まで拡張する。ただし、ほふらず売らずという意味で、実際には、ショグレのことをツェタルと称するケースもしばしばあり、広い意味で、ツェタルはショグレを包含する。人はいう。ツェタルはショグレであり、ショグレはツェタルではない。

河南蒙旗を包摂する社会主義中国ではかつて家畜の集産化が進められ、無神論的な視点からツェタルは迷信とされ、長年禁止されていた。1980年以降家畜の私有化や信仰の自由が一定程度保障されてから、牧畜民のツェタルが復活してきた。河南蒙旗の牧畜民で家畜の群れの中にツェタルをもたない者はいないと皆が誇り顔で話す。1990年以降経済発展に伴い中国東部において多くの富裕者が生まれ、功徳を積むないし贖罪のため、蛇や鰐などの野生動物を買い取り、それらを公園など公共の場に放つという放生（ファンシェン）現象が増えてきた。しかし、それが行き過ぎて結果的に動物虐待や環境問題を引き起こし、貴重動物の密猟に繋がると懸念される。ラトゥールの言葉を借りれば、一種のハイブリッドな様相を呈している。21世紀に入ってから環境保護意識が強まる中、自然と調和の取れたとされる西部の仏教系少数民族の伝統文化が賛美される。そこでさらに、日本の放生（ほうじょう）も視野に入れれば、ツェタルはエコロジカルな「東洋思想」の一環などと好意的に解釈されがちだろう。確かに、ツェタルの漢語訳は放生であり、殺生を戒めるという意味で、ツェタルと放生は現象的に類似する。

しかし、牧畜民にとって唯一の生産手段は家畜であり、部分的とはいえ、その使用を放棄するという選択を理解するには別の試みが必要である。これまでの人間と動物の関係をめぐる人類学的な研究蓄積は膨大だが、そのほとんどの強調点は人間集団にとっての特定の動物種がもつ構造的、象徴的な意味に置かれていた。だが、ツェタルは、河南蒙旗とその他の民族集団とを弁別するための指標として起用されたことはない。なぜなら、個体だからだ。また、動物それ自体に両義的な特徴があるため、それが危険視されたり崇拝されたりすることもない。なぜなら、日常的に見慣れた家畜だからだ。そして、フレイザーやエヴァンズ=プリチャードなどが着目した贖罪やそれに伴う供儀的な側面はショグレのなかにみられなくもない。しかし、それは一つの側面にすぎず、とりたてて重要というわけではない。なぜなら、ショグレもツェタルもその命が極限まで持続していくからである。

このように、ツェタルという聖別現象を検討するにあたって、そこでみられた個体性、日常性、持続性に留意することが重要である。これらは、ツェタル実践から直接見出せる三つの特徴であるが、そのいずれも群体（集合）性、非日常性、一過性を意識したうえで行なわれているわけではない。そして聖別の対象は、家畜／野生動物、動物／植物など二項対立的な図式において措定されているわけでもない。したがって、「ハイブリッド」な状況にある放生との比較においていえば、厳密の意味で定義しきれないツェタル（そしてショグレ）のほうが、我々が考える自然と社会の連続性をあらわしているといえよう

【 河南蒙旗、家畜、ツェタル、牧畜民、聖別 】